

第4章

マスタープラン策定の基本方針

水道事業及び下水道事業の運営においては、水道における給水区域や給水人口、下水道における排水区域や処理人口など一定の要件を定めることとしています。マスタープランは、以下の条件に従って策定します。

また、策定の基本方針は、事業を取り巻く環境の変化に対応し、将来にわたって水道及び下水道サービスを提供できるよう、事業を再構築することです。また、変化への対応と事業の再構築に当たっては、横須賀市上下水道局らしさをいかしていきます。

1 策定の条件

(1) 給水区域及び排水区域

給水区域及び排水区域は以下のとおりです。なお、水道事業の給水区域には、湘南国際村地区内の三浦郡葉山町の上山口及び下山口の一部も含まれています。

● 水道	横須賀市全区域及び三浦郡葉山町の一部
● 下水道	横須賀市の区域のうち下水道法※の認可を受けた区域（主に市街化区域※ ⁴⁶ ）

(2) 人口

将来人口は、本市基本計画に示された計画人口（2021年（平成33年）で約39万人）としています。

● 水道	予測給水人口 :390,000 人
● 下水道	予測区域内処理人口 :382,000 人

(3) 水量

お客さまが利用する水量は季節、天候、時間などにより変動します。そのため予測水量は一日最大の給水量及び汚水処理量となります。予測水量は水需要の減少傾向を踏まえて設定し、安定的な水道水の供給及び汚水処理が行えるものとしています。

● 水道	予測給水量 :220,000m ³ /日
● 下水道	予測汚水処理量 :180,000m ³ /日

用語解説

※ 46 市街化区域：既に市街地を形成している区域及び概ね10年以内に優先的、計画的に市街化を図る区域のこと。

2 「使いこなす」水道・下水道事業への再構築

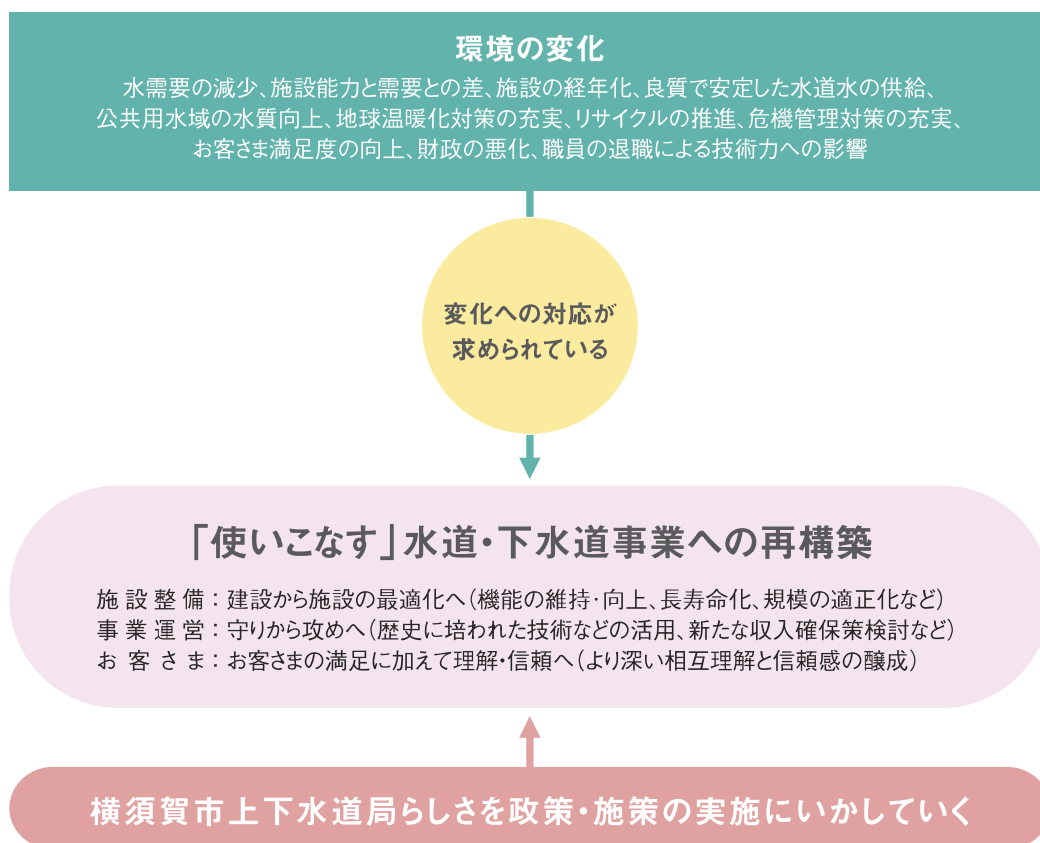
事業を取り巻く環境の変化に対応するための事業再構築の方向性は、施設を「使いこなす」事業構造への変革です。「使いこなす」とは、上下水道局の課題や状況を熟知し、適時かつ適切な施設整備と事業運営を実現し、お客さまに適切な水道及び下水道サービスを提供し続けることです。

施設については、機能の維持・向上や長寿命化、さらに、需要変化に応じたダウンサイジング※47を同時に実現する最適化により、維持管理・更新に係る費用の平準化・低減を目指します。

事業運営については、長い歴史で培った技術、知識、資産などを最大限に活用する攻めの経営により、新たな収入確保や、民間的経営手法※48導入などにより経営基盤の強化を目指します。

お客さまとの関係については、お客さまからの水道料金及び下水道使用料により支えられている公益事業者として、「お客さま満足度の最大化」の経営をさらに発展させ、水道及び下水道に関するサービス内容や、対価としての水道料金及び下水道使用料のあり方など事業運営に関して理解と信頼を得ることを目指します。

図 4-1 マスタープラン策定の基本方針



用語解説

※ 47 **ダウンサイジング**: ものごとの規模を小さくすること。上下水道局では、水需要減少や広域化、技術進歩に伴い、施設更新等の際に施設能力を縮小し、施設の効率化を図ること。

※ 48 **民間的経営手法**: 民間の経営ノウハウを活用した施設整備や業務運営の手法

3 横須賀市上下水道局らしさを示す「DNA」

上下水道局の強みや良さをもとに、さらに、先進的な事業体を目指します。

● 深く幅広い思考

本市の水道事業は100年余、下水道事業でおよそ50年の長い歴史を持つ事業体です。

この歴史に裏付けられた豊富な知識、高い技術力を引き継ぎ、さらに一歩進め、深く幅広く思考することで、お客さまに満足していただける新しいサービスや取組みを提案します。



走水水源地煉瓦造貯水池
(国登録有形文化財)



上町下水処理場
(現上町浄化センター) 通水式
(1965年(昭和40年)6月)

● 新しいことへの取組み

次の時代の水道事業、下水道事業を見据え、中核都市の先導者として新しいことに取り組んできました。

全国に先駆けて、非常用貯水装置※の設置や災害二輪調査隊※の設立などの震災対策や、地図情報による施設管理手法であるマッピングシステム※⁴⁹を導入しました。

今後も、現状に満足せず常に先導者として新技術の導入、開発に取り組んでいきます。



非常用貯水装置
(三笠公園)

● 先進的な事業

これまで上下水道局が取り組んできた先進的な実績については、お客さまや国、中核市※、協会団体においても評価されてきたところです。この実績から、(社)日本水道協会や(社)日本下水道協会などで各種委員としての活動や、職員の派遣も行ってきました。

水需要の減少に伴うダウンサイジングや施設の老朽化対策など、本市が直面している課題は、多くの事業体においても課題となっています。

今後も、先進的な事業体として、これらの課題解決に向けた取組みを行います。



日本水道協会広報専門委員会
出典：日本水道協会ホームページ

図 4-2 横須賀市上下水道局らしさを示す「DNA」



用語解説

※ 49 マッピングシステム：地図情報とともに管路の口径、管種、埋設年度などのデータを格納し、適切な維持管理や計画的な更新に利用を図る総合的な情報システム